

令和4年度 病院相互訪問チェックリスト

施設名： 東京通信病院

課題名	Plan	Do	Check	Assessment		
最終目標	なにを	どのように	実施状況	確認日 達成状況	改善策	
A 共通テーマ 「放射線治療の質の向上」	I IGRT の強化	①前立腺癌や肝腫瘍への金マーカー導入	実施中	11/30 70%	位置合わせの精度向上のため新規導入。前立腺癌は現在では希望者のみだが、将来的には全例施行、かつスペース OAR の導入も検討。	
		②頭頸部癌へのマウスピース導入	実施中	11/30 100%	下顎の位置固定、金属歯による粘膜炎症軽減のため院内歯科連携し新規導入。	
	II 患者教育・サポートの強化	①前立腺癌の患者用スケジュール表作成	完了	11/30 100%	患者に毎日記録してもらい、前処置の状態を毎日フィードバックしコメント記載するスケジュール表を新規導入。	
		②初診時に認定看護師やがんサポの同席を強化	実施中	11/30 50%	同席強化を目指しているが、照射混雑時間帯と初診が重なると同席が難しく、マンパワーの強化が必要。	
	III 院内での情報共有	①統一した看護ケアの提供	完了	11/30 100%	放射線治療マニュアルの作成、有害事象看護記録テンプレートを新規に作成。	
		②研修会、多職種カンファレンス、勉強会実施	実施中	11/30 70%	認定分野別研修として、年に3回研修会開催。その他、適宜病棟で多職種カンファレンスや勉強会を実施。	
	B ブロックテーマ 「 」	I	①	選択してください	/ %	
			②	選択してください	/ %	
		II	①	選択してください	/ %	
②			選択してください	/ %		
III		①	選択してください	/ %		
		②	選択してください	/ %		
C 施設テーマ 「がん化学療法の質の向上」	I がん化学療法処方鑑査の質の向上、均てん化	①院内で承認されたレジメンの内容、支持療法、確認する検査項目を記載した投薬記録票を作成する。患者ごとに管理し、調剤時および患者指導時に使用する。	完了	12/7 100%	薬歴管理、次回以降の投与計画の確認を効率的に行い、経験年数が少ない職員の処方鑑査の質の向上に寄与している。新規レジメンの帳票のメンテナンスを適宜行っていく。	
		②製薬会社の資材、レジメン説明書を再整備し、指導用資材を充実する。	実施中	12/7 90%	情報管理課に依頼し、レジメン説明書を順次電子カルテシステムより出力可能とすることにより、入院実施時と同じ資材で患者指導を行うことができていく。新規レジメンの説明書は適宜メンテナンスを行っていく。	
	II がん患者への薬剤指導の充実	②薬剤指導の対象を注射剤レジメン施行患者から皮下注製剤、内服抗がん薬使用患者へがんサポートチーム、外来診療科と連携し、順次拡大する。	実施中	12/7 50%	他部署と連携し、薬剤指導の運用を構築した。初回導入の患者を中心に順次拡大していく。	
		III 薬薬連携の推進	①院内で承認されたレジメンを病院ホームページに掲載し、保険薬局薬剤師との研修会を実施し、薬薬連携の体制を整備する。	実施中	12/7 80%	レジメンは診療科ごとにホームページに掲載しており、今後も定期的にメンテナンスしていく。研修会は2023年1月に実施予定である。
	②治療内容、副作用の発現状況、検査値のほか、保険薬局薬剤師の指導時に参考となる情報を提供する。		完了	12/7 100%	治療の実施状況のほかに病院薬剤師の指導内容、特に保険薬剤師に確認を依頼する患者状況、患者の次回受診予定日を情報提供している。	
	③受領した服薬情報提供書は病院薬剤師が確認後、電子カルテシステムに掲載、緊急性がある場合は医師へフィードバックする。得られた情報を有効活用する運用を構築する。		実施中	12/7 80%	患者の次回診療前にスタッフ間で情報共有することにより、看護師の診察前問診、薬剤師の指導時にも有効利用している。服薬情報提供書の受領数を増やすため、薬局薬剤師が情報提供しやすい書式の追加を検討する。	

評価施設名： 永寿総合病院

／ 評価(訪問)日： 令和4年12月16日

／ 実施方法： web会議

評価	A-I 優	A-II 優	A-III 優	B-I 選択	B-II 選択	B-III 選択	C-I 優	C-II 優	C-III 優
総評	<p>放射線治療については、金マーカーやマウスピースの導入など、最新の医療が提供されている体制をお聞きすることができました。また、いまは通院されながら照射される方が多いと思われるので、患者教育という観点から外来での関わりを強化されており、そして何より認定看護師が専門性を発揮されているとお聞きし、非常に素晴らしい取り組みと感じました。当院には放射線治療がないため、ぜひ貴院の緩和ケア病棟と連携する形でお世話になりたいと考えております。</p> <p>次に「がん化学療法の質の向上」についてですが、院内でのレジメンの管理だけでなく、それを外部の調剤薬局とも連携する形で進められている体制を知ることができました。また、なによりフットワーク軽い薬剤師の動きが、患者指導に大きな役割を果たしていると実感し、素晴らしいと感じた次第です。内服などの抗がん剤で治療されている患者への関わりなど、今後の課題は当院も同じであり、引き続き情報交換させていただければ幸いです。今回はありがとうございました。</p>								